

米国 気温の低下で鉱工業生産は拡大(06年10月鉱工業生産)

発表日：06年11月16日（木）

～自動車部門のマイナス幅拡大により製造業生産の減少持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	稼働率	前月比	前年同月比
06/01	▲0.1	(+3.2)	+0.9	+2.3	▲10.0	+0.1	+0.9	+2.6	+80.9	+80.2	+0.2
06/02	+0.4	(+3.1)	▲0.2	+0.7	+5.7	+1.2	▲0.3	▲0.9	+81.1	+79.9	+0.2
06/03	+0.5	(+3.7)	+0.4	▲0.1	+1.7	+1.0	+0.3	+1.5	+81.3	+80.0	+0.2
06/04	+0.8	(+4.6)	+0.9	+1.7	▲1.3	+1.7	+0.9	▲0.3	+81.8	+80.6	+0.2
06/05	+0.1	(+4.4)	▲0.2	+0.5	+1.9	+1.8	▲0.4	▲1.3	+81.7	+80.2	+0.2
06/06	+1.1	(+4.7)	+1.0	+0.9	+2.9	+2.0	+0.7	+3.2	+82.5	+80.8	+0.2
06/07	+0.3	(+5.0)	+0.4	▲0.1	+0.2	+2.0	+0.3	▲5.2	+82.6	+80.9	+0.2
06/08	+0.3	(+5.0)	+0.5	▲0.8	+0.1	+3.5	+0.1	+1.8	+82.7	+81.2	+0.2
06/09	▲0.6	(+5.8)	▲0.2	+0.4	▲4.6	+2.7	▲0.5	▲1.9	+82.1	+80.8	+0.2
06/10	+0.2	(+4.9)	▲0.3	+0.6	+4.1	+2.3	▲0.3	▲3.9	+82.2	+80.4	+0.2

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比 +0.2%と市場予想を 下回った

06年10月の鉱工業生産は前月比+0.2%とプラスに転じた。製造業のマイナス幅が拡大したものの、鉱業の拡大ペースが加速したうえ、公益が増加に転じた。市場予想の同+0.3%を下回ったものの、8、9月合計で同0.3%上方改定されていることから、予想対比強い内容といえる。ただし、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+2.1%（前月+4.2%）と鈍化しており鉱工業生産のモメンタムは低下している。

製造業は、ハイテクが好調を維持したが、自動車の減少ペース加速により前月比▲0.3%とマイナス幅が拡大した（8、9月合計で同0.3%上方改定）。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+3.4%（前月+5.0%）と、生産は緩やかに鈍化していると判断される。

稼働率は、生産能力が前月比+0.2%と拡大したものの、生産が同+0.2%となったため82.2%と市場予想を上回った（9月分は81.9%から82.1%に上方改定）。製造業稼働率は80.4%と低下した。ただし、ハイテク部門の稼働率は83.3%と前月から上昇し3ヶ月連続で80%台を上回っており、今後増産投資の拡大が期待できる。

拡大した製造業生産 は19業種中10業種 に増加

業種別にみると、鉱業は強い需要を背景に前月比+0.6%と加速した。公益は、例年よりも低い気温によって天然ガスが同+0.6%、電力が同+5.0%と上昇したため、全体でも同+4.1%とプラスに転じた。

製造業は、前月比▲0.3%とマイナス幅が拡大したものの、拡大した業種数が19業種中10業種（前月5業種）に拡大した。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比▲1.7%、完成車が同▲6.3%と減少幅が拡大したため、同▲3.9%と2ヵ月連続の下落となった。一方、ハイテク関連は、通信機器が同+2.4%と加速したも

の、コンピューターが同+1.2%、半導体が同+2.5%と減速したことにより同+2.3%（前月同+2.7%）と拡大ペースが鈍化した。もっとも、過去の数字が上方改定されたこともあり、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+37.5%と前月の同+33.0%からさらに加速するなど好調さを維持している。

加えて、航空機部門の生産は前月比+1.3%、前年同月比+16.2%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産を下支えしよう。

生産は当面緩やかな 拡大にとどまる公算

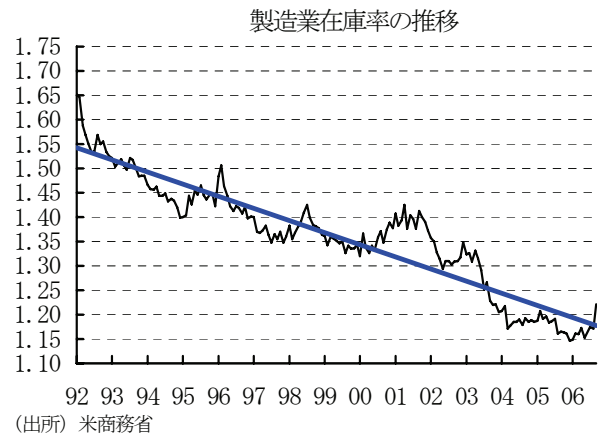
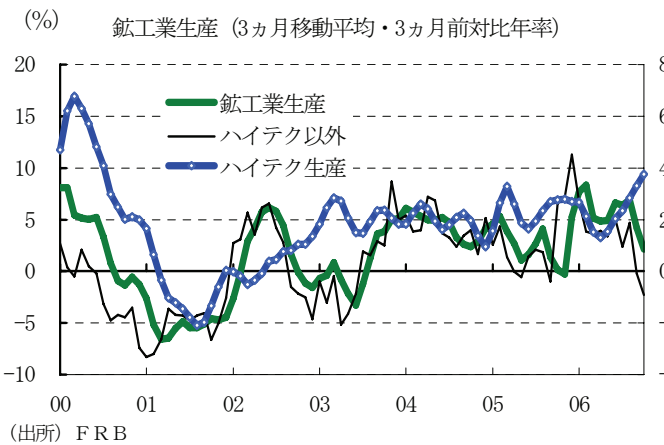
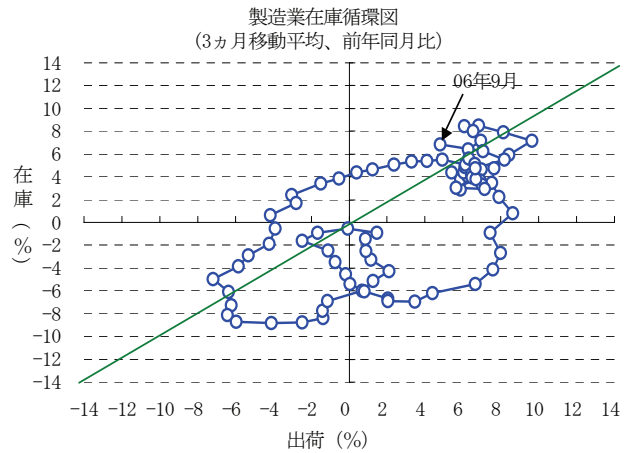
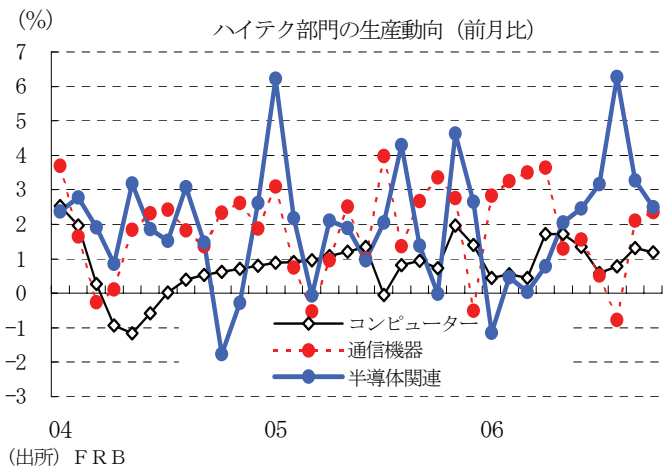
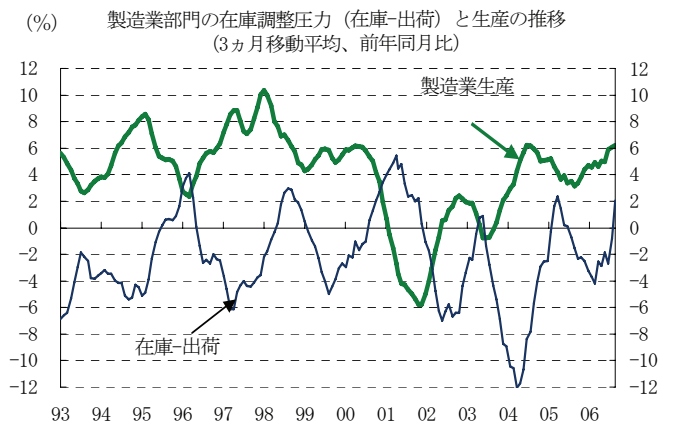
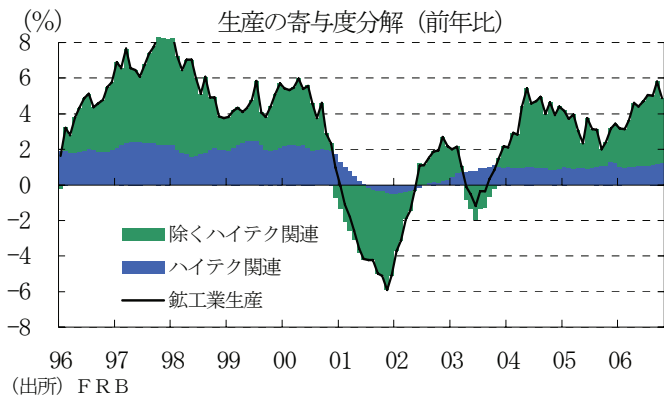
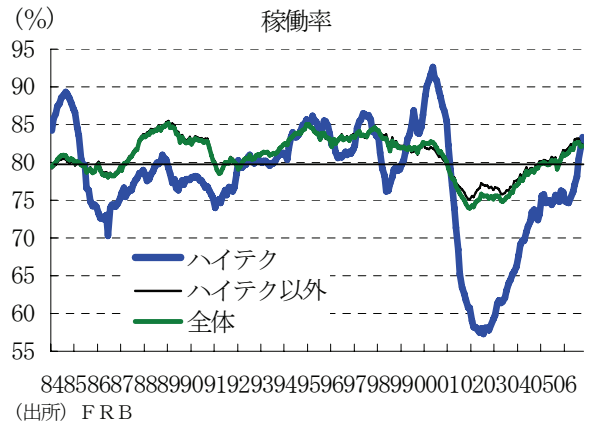
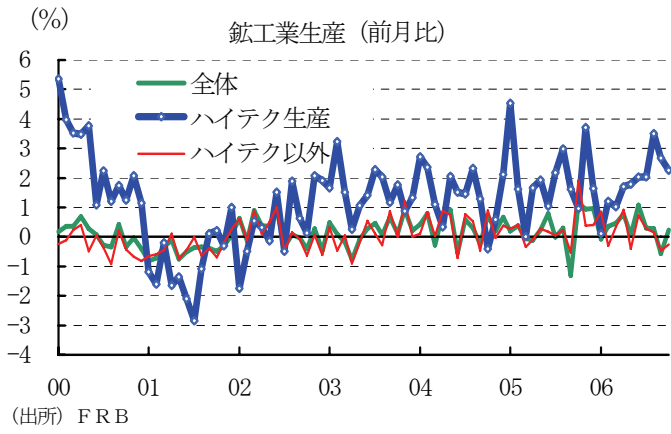
四半期でみると、7～9月期の鉱工業生産は前期比+1.0%と4～6月期の同+1.6%から減速している。製造業生産も同+1.2%と4～6月期の同+1.3%から減速している。今後も、需要の鈍化、在庫の抑制によって2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大が予想される。

生産に影響を与える需要動向をみると、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資等によって投資需要が強く、設備投資は2007年も好調を維持するとみられる。一方、個人消費が雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化等により前期比年率+2%台後半の安定的な拡大ペースが見込まれる。また、住宅投資がこれまでの金利上昇の影響で2007年1～3月期にかけて減少が続き、家計部門は緩やかなペースでの拡大が予想される。輸出は、ドル安効果によって押し上げられるものの海外景気の減速を背景に2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大が見込まれる。

このような需要のもと、自動車や関連産業での在庫の削減が予想されることから、2007年4～6月期にかけて在庫投資は緩やかな拡大にとどまると見込まれる。

製造業生産は前年比 で11月以降も鈍化が 続くと予想される

製造業部門の在庫調整圧力（3ヵ月移動平均・前年同月比の在庫から出荷の伸び率を引いたもの）をみると、3月に▲4.2%とボトムをつけ、9月にはプラスに転じている（P 3右側の上から2番目のグラフ）。このピーク、ボトムは、製造業生産（3ヵ月移動平均・前年同月比）のボトム、ピークに1～6ヵ月先行することから、製造業生産の前年比伸び率は11月以降も鈍化傾向を辿るとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。